


見える化シート

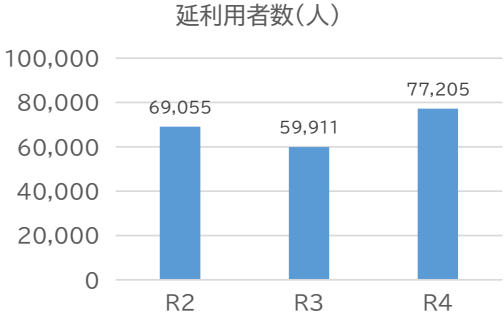
基準日

令和5年3月31日現在

基本情報

施設名称	八戸ブックセンター	
所在地	八戸市大字六日町16番地2 ガーデンテラス1階	
所管部署	文化創造推進課	
設置の目的	本と出会う新たな機会を創出することにより市民の豊かな心を育み、文化の薫り高いまちを目指すとともに、中心市街地の活性化に寄与するため、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	315.00	m ²	所有状況	私有地					
	用途地域	-								
建物	建物名称	八戸ブックセンター								
	建築年月日	平成28年12月4日								
	延床面積	315.00	m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	4	地下	-
	整備費用	120,876	千円	財産区分	行政財産					
	耐震診断	不要		診断結果	-					
運営	開館時間	10:00~20:00 日曜・祝日は19:00まで								
	休館日	毎週火曜及び年末年始(12/29~1/1)								
	開館日数(日)	R2	298	R3	260	R4	308			
	運営形態	直営								
主な利用者	市民(全市的)		市外からの観光・ビジネス客							
延利用者数(人)	R2	69,055	R3	59,911	R4	77,205				
利用	1日当たり利用者数(人)	R2	232	R3	230	R4	251			
	利用料金	入館料	無料		貸館利用料					

※令和3年度における開館日数及び利用者数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響によるもの。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	-		正職員	会計年度任用職員
利用時間	-	原付・バイク	-			
入出庫時間	-	自転車	-		3	4
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト対応トイレ		自家発電設備	再生可能エネルギー設備
-	○	○	○		-	-
災害指定避難						蔵書数(冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な火災	火山		
-	-	-	-	-	-	

施設運営費の状況		(単位:千円)					
		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	39,174		42,402		39,320	
	企画運営費	16,264	79%	15,274	85%	14,242	64%
	施設の維持管理費	34,522	99%	35,193	99%	43,397	99%
	うち、光熱水費	863		1,038		1,529	
	うち、委託料	2,545	100%	2,759	100%	7,189	100%
	合計	89,960		92,869		96,959	
収入 (財源)	使用料	319		277		372	
	その他	15,375		26,170		26,792	
	一般財源	74,266		66,422		69,795	
	合計	89,960		92,869		96,959	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和4年度)			
<p>1.人に係る経費 主に企画運営事業に4人、その他の施設運営や管理に3人の職員が従事しています。選書や企画運営に専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較し長く、また休館日も少ないことからシフト制とするなど、施設運営に必要な職員を配置しています。</p> <p>2.企画運営費 ・基本方針に基づいた企画事業を実施するための経費を要しています。(ゲスト謝礼、企画事業委託料等) ・書籍の仕入約7,300千円は棚卸資産であり、書籍が売れたときに費用となる性質のものですが、企画運営費に含めて計上しています。書籍を返品した場合は、仕入にかかった金額は全額市に返納されます。</p> <p>3.施設の維持管理費 ・テナントとして入居しており、建物借上料(15,629千円)を要しています。 ・令和4年度について、在庫管理システム開発業務委託料(単年度事業)のほか、設備に係る修繕の発生、光熱水費の高騰などにより増となっています。</p> <p>4.その他 ・その他収入の主なものは、書籍・雑貨売上収入、ブックセンター事業費寄付金です。</p>				<p>維持管理費(その他) 35%</p> <p>人に係る経費 41%</p> <p>維持管理費(委託料) 7%</p> <p>維持管理費(光熱水費) 2%</p> <p>企画運営費 15%</p>			

取組の状況	
設置条例	八戸ブックセンター条例
運営方針等	八戸ブックセンター基本計画書に定める施設運営の基本方針
取組の内容	<p>1. 施設の特徴</p> <p>八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、新しい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行しています。</p> <p>【基本方針】</p> <p>(1)本を読む人を増やす 本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくするような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントなどを開催します。</p> <p>(2)本を書く人を増やす 本を「書く人」を増やすために、執筆専用のブースを備え無料で貸し出しするほか、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催を行います。</p> <p>(3)本でまちを盛り上げる 本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものであることから、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。</p>

2. 主な事業

(1)セレクトブックストアの推進

様々なジャンルの入口となる本をセレクトして並べる提案型の棚づくりにより、知的好奇心を喚起すると共に、新たな本や未読のジャンルとの出会いを演出します。また、雑誌やコミック、売れ筋の新刊を中心に扱う民間書店には並び難い本を取り扱い、大型書店のある大都市との文化的環境の格差を解消することに寄与します。

(2)本のまち読書会の開催

様々なテーマを設定した「読書会」の開催や、作家・編集者・出版社などからゲストを招いたトークイベントなどを開催することにより、新たな本との出会いの創出、更に深く本を読むきっかけに繋がっています。
【令和4年度】「呉勝浩『爆弾』を読む」

(3)アカデミックトークの実施

教育機関や文化施設などから講師を招き、本を軸にした、各分野からの専門的なトークイベントを開催することにより、本に対する興味を湧き立たせることに繋がっています。
【令和4年度】 八学大・八工大・八戸高専の教授、県立美術館・寺山修司記念館の学芸員など

(4)執筆出版ワークショップの開催

小説や自分史、電子書籍の作り方など、作家や専門家をゲストに招きながら執筆や出版に関するワークショップを開催することにより、「ものを書く楽しさ」、「発表し、観てもらおう体験」に繋がっています。
【令和4年度】「高校生のための超ショートショート講座」

(5)ギャラリー展示の実施

特定の作家や作品に関する展示、本の印刷・造本・装丁など、本を切り口とした様々な展示を行うことにより、本を手に取り興味をふくらませるきっかけに繋がっています。
【令和4年度】「紙から本ができるまで／土から土器ができるまで展」など

(6)パワーブッシュ作家の紹介

トークイベントや展示などで八戸に関係する作家、作品を幅広く紹介することにより、「本のまち八戸」を盛り上げるきっかけに繋がっています。
【令和4年度】「八戸出身作家・呉勝浩トークイベント」など

(7)ブックサテライト増殖プロジェクトの実施

市内の飲食店、公共施設などに呼びかけ「ブックサテライト」として本箱を設置。それぞれの施設に合わせて選書した本を置くことにより、その場所にあった本棚がある「まち」を目指しています。

(8)本のまち八戸ブックフェスの開催

年に一度、ブックセンター、マチニワ、はっちで開催するイベントで、市民参加型の一箱古本市や市内書店の出店をはじめ、庁内関係部署とも連携しながら、本に関する様々な企画を実施することにより、本への興味喚起や中心街への来街動機に繋がっています。

(9)施設の活用(読書会ルーム)

市内読書団体などへの貸出のほか、様々な企画事業にも活用しています。企画事業参加者等へ施設利用方法が浸透してきたことにより、令和4年度の貸館利用について、読書会による利用を中心として、令和3年度比較で月平均2.1件、コロナ前の令和元年度比較で月平均1.2件の増となっており、新たなコミュニティ形成、中心街への来街動機に繋がっています。

(10)施設の活用(カンヅメベース)

本などを執筆したい人向けに貸出しています。施設の認知度が向上してきたことや、企画事業参加者への周知等により、令和4年度の利用について、令和3年度比較で月平均6.6件、コロナ前の令和元年度比較で月平均8.6件の増となっており、実際に本が出版されるケースも出てくるなど、「書く」ことへの動機に繋がっています。

(11)教育機関との連携

各教育機関と連携し、ブックセンター内に留まらず、各校に出向いたり、各種行事においてトークやワークショップ、その他の企画を実施することにより、若年層に向けた本への興味喚起、体験づくりに繋がっています。



読書会ルームでのイベント状況
(写真はZINEづくりに関するイベント)



ブックセンター以外の会場でもイベントを実施
(写真は呉勝浩さんトークイベント)



ギャラリー展「紙から本ができるまで
／土から土器ができるまで」展



執筆出版ワークショップ
高校生のための「超ショートショート講座」



「本のまち八戸ブックフェス」



ブックサテライト状況
(写真は青い森信用金庫湊支店)

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	40,299
	企画運営費	15,260
	施設の維持管理費	37,704
	うち、光熱水費	1,143
	うち、委託料	4,164
合計	93,263	
収入(財源)	使用料	323
	その他	22,779
	一般財源	70,161
	合計	93,263

(1)維持管理費について

①維持管理費の状況

・民間書店と連携を図る取組の一環として、地元書店が設立した組合に対し書籍等の仕入販売返品業務を委託しています。
 ・テナントとして入居しているため、建物借上料を要しています。

②維持管理費の削減の取組

運営に支障がない範囲での光熱水費や一般事務経費の節減に努めており、今後も節減を継続していきます。

(2)財源の見通しについて

①収入の状況

一般財源を活用し専門人材や企画運営費を確保することで、民間書店や図書館で提供していない「本」に関連する公共性の高い事業やサービスの提供に努めています。令和3年度はコロナの影響で約2カ月間の臨時休館があり、令和4年度は臨時休館がなかったことから、令和4年度の書籍の販売冊数、雑貨を含めた販売金額は令和2・3年度と比較し増加しています。しかし、昨年度は依然としてコロナの影響下にあったことから、コロナ禍前の水準には届いていない状況です。

②収入増に向けた取組

特徴的な棚づくりや企画事業を実施するとともに、それらの情報発信を通して、民間書店とは差別化を図った書籍・雑貨の売上向上に努めていきます。

【参考】

1. 来館者数推移

	累計	月平均	1日平均
平成30年度	125,983人	10,499人	406人
令和元年度	109,560人	9,130人	355人
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人

2. 販売冊数推移

	累計	月平均	1日平均
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊

3. 販売金額推移(書籍・雑貨合計額)

	累計	月平均	1日平均
平成30年度	13,623,253円	1,135,271円	43,946円
令和元年度	13,843,326円	1,153,611円	44,800円
令和2年度	10,863,851円	905,321円	36,456円
令和3年度	10,598,560円	1,059,856円	40,764円
令和4年度	11,688,510円	974,043円	37,950円

4. 施設の活用推移(読書会ルーム、カンヅメブース)

	読書会ルーム				カンヅメブース			
	貸館		自主事業		市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	計	月平均	計	月平均	登録者数	(累計)	計	月平均
平成30年度	57件	4.8件	69件	5.8件	51名	194名	153件	12.8件
令和元年度	73件	6.1件	42件	3.5件	41名	235名	204件	17.0件
令和2年度	50件	4.2件	32件	2.7件	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	52件	5.2件	14件	1.4件	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	87件	7.3件	16件	1.3件	28名	302名	307件	25.6件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10カ月で算出(1~4の全て)